

県こども総合療育センターとは

平成22年6月1日から

医療保険適用の医療機関

鹿児島県こども総合療育センター（平成22年4月1日開設）

診療部

連携・協同

支援部

（健康保険による保険診療）

（相談は無料）

診療課

医師（保健師）
看護師など

療育指導課

心理・ST・OT
PT・保育士等

地域支援課

保健師 教員 保
育士 社会福祉士等

発達支援課

（発達障害者
支援センター）心理・相談員・
就労支援員診断
投薬治療
診察・検査・脳波
精神科・歯科等診療巡回療育相談
保護者支援
障害児の個別リハ
集団療育（さくらんぼ広場）
診断・評価
ペアレント・トレーニング地域支援体制整備
情報収集・発信
個別支援・総合相談
診療予約受付
巡回療育相談
障害児等地域療育人材育成 研修
普及啓発
就労支援
発達支援
児童・成人の相談
ペアレント・メンター

●障害児等療育支援事業所

地域での相談支援、専門職を施設に派遣するなど、県内9事業所に委託

（やまびこ、よろこび、ふれあい、めぶき園、なんさつ、さちかぜ、
集（つどい）、あかつき学園、チャレンジサポート奄美）

紹介票

鹿児島県こども総合療育センター 受診申込・紹介票（学童用）

氏名	性別	生年月日	学年	学年	学年	学年	学年	学年	学年
姓	名	性別	生年月日	学年	学年	学年	学年	学年	学年
姓	名	性別	生年月日	学年	学年	学年	学年	学年	学年
姓	名	性別	生年月日	学年	学年	学年	学年	学年	学年

1. 受診事由のきっかけ（紹介依頼が実現している理由で、最初のきっかけを選んでください）

2. 紹介となった理由（医師の診断、療育の必要性など）

3. これまでの経過（療育の経過や療育に関する経過について、簡潔に内容を記入）

4. 受診に対する支援のあり方について、検討されていますか？（どちらかの口 に○）

5. こども総合療育センターの受診に際して、保護者はどのように受け止めていますか？（どちらかの口 に○）

6. 現在、校内で受けている支援内容など、全ての欄について、該当するものに印を入れてください。

7. 校外で受けている支援の内容（個別の教育支援計画などに記載されている場合は省略可）

8. 校外の施設・機関での診断、訓練等の状況

9. 療育費など

（注）上記の内容等を確認後、下段のとおり同意される場合はご署名ください。

本紹介票を「鹿児島県こども総合療育センター」に提出することになります。

ご協力のために、学校が持っているお子様の情報（鹿児島県こども総合療育センター）に提供することになります。

紹介票の導入

当初は待機期間を短縮する目的で優先順位をつける仕組みを検討したが、地域で支援が開始（診断前支援が開始）されているケースから受け入れる方針を決め、診療本人家族からの直接予約ではなく、学校や保育所、児童発達支援事業所など支援者からの予約に統一した。

診断前支援の仕組みが構築され待機期間の有効活用と地域の受け皿、支援体制づくり、保護者が診断を聞く心構えを作る時間となり保護者の不安軽減にもつながる。

特に、療育センターに所属する教員が地域の学校との連携に重要な役割をはたしている。

診断閾下のニーズ増大に合わせ地域の支援力アップにも貢献すると思われる。

5

診断前支援という考え方

困りのあるケース全てに診断が必要か？

（障害児支援の見直しに関する検討会報告書 2008年7月）
（発達障害施策の推進に関わる検討会報告書 2008年8月）

・自閉症などの診断がなければ支援が必要ない、というのは間違い。

・診断がつくかどうかわからない段階でも、家族は育児支援を必要としており、子どもにも支援ニーズが高い。

・一人ひとりの子どもと家族のニーズに応じた効果的な支援をするためには、まず多面的なアセスメントが必要。（診断名だけではない）

・そのような関わりの中で本当に医療や診断が必要なケースに療育センターを受診してもらえるような仕組みが必要。

6